

令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査



# かけがわの子供たち



掛川市教育委員会

掛川市では、『教育大綱かけがわ』の中で、子供たちの目指す姿の一つを「豊かな心や健やかな体に高めていくひと」とし、体力・たくましさの育成と健康教育に重点を置いています。

本年度実施した全国体力・運動能力、運動習慣等調査について、掛川市の集計結果をお知らせします。  
 全国平均・県平均を100として、指標値により示しました。



## 実技に関する調査結果



### 【小学校5年男子】

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	シャトルラン	50m 走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
全国比較	98	97	97	104	102	100	100	100	100
県比較	100	101	102	104	101	101	100	106	102

### 【小学校5年女子】

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	シャトルラン	50m 走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
全国比較	100	96	98	107	102	101	102	106	102
県比較	101	100	102	106	98	101	101	104	102

### 【中学校2年男子】

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	持久走	50m 走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
全国比較	97	102	101	102	105	99	101	101	100
県比較	98	101	100	102	103	99	100	101	99

### 【中学校2年女子】

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	持久走	50m 走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
全国比較	100	102	102	103	103	100	101	101	102
県比較	100	103	101	103	101	99	99	98	100

※持久走と50m走については、タイムの速い方が良い結果であるため、市平均値を100として計算しました。

## 調査結果全体から見えてきたこと

- 反復横跳び、シャトルラン（持久走）において、小5・中2の男女ともに、全国平均を上回っている。小5女子のシャトルランは県平均に届かなかったものの、掛川市の子供たちの敏捷性、持久力は全体的に見て高い。
- 実技に関する調査結果では、小5・中2の男女ともに、全国平均を上回っている項目が多い。掛川市の子供たちは、運動能力が全体的に見て高い。
- 児童・生徒に対する質問紙調査では、「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツは大切なもの、やや大切」、と答えた児童・生徒の割合が、小5、中2の男女において全国及び県平均を上回っている。また、「地域のスポーツクラブ（スポーツ少年団や習い事をふくみます）に入っている」と答えた小5男女の児童、および、「学校の部活動や地域のスポーツクラブに所属している」と答えた中2男女の生徒の割合が、全国及び県平均を上回っている。掛川市の子供たちは、運動やスポーツに関わる意識が高いと考えられる。
- 「体育（保健体育）では、進んで学習に参加している。」と答えた児童・生徒の割合が、小5・中2の男女すべてで全国及び県平均を上回っている。さらに、「体力テストの結果や体力・運動能力の向上について、自分なりの目標を立てている」と答えた児童・生徒の割合が、小5・中2の男女すべてで全国及び県平均を上回っている。掛川市では、子供たちにとって体育（保健体育）の授業が充実したものになっている。
- △小5男女の「体力合計点」においては全国及び県の平均を超えている、また、同等となっているものの、「握力」「上体起こし」「長座体前屈」の3種目において全国の平均値より低い。
- △「握力」、「50m走」において、中2の男女が全国及び県平均に届かなかった。「50m走」においては、小5男女の平均も、全国及び県平均並みとなっている。

## 体力の高い子 ポイント5

「実技に関する調査」と「質問紙調査」の相関関係を分析すると、次のような子供の体力合計点が高い傾向にある。

- ① 「運動が好き。」、「運動をするのは大切である。」と思っている。
- ② 体育の授業を楽しんだり、進んで学習に参加したりしている。
- ③ 体育の授業で、「できたり、わかたり」する実感をもつために、目標を意識したり、友達と助け合ったり、教え合ったりしている。
- ④ 中学校に進んだら（中学校を卒業した後）、自主的に運動やスポーツをする時間をもちたいと思っている。
- ⑤ 体育の授業で、「できたり、わかたり」する実感をもつために、その授業で学習したことを振り返っている。
- ⑥ 体育・保健体育の授業を除き、1週間あたりの運動時間が420分以上である。



## 今後に向けて

掛川市の子供たちは、例年と同じく、運動好きな子供が多く、運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツは大切なものと考えている子供も多く、自己肯定感も高い結果となりました。今後も、「幼児期の終わりまでに育ててほしい10の姿」を手掛かりに、遊びを通して育まれた幼児期の育ちを学校教育とつなぎ、「運動（体を動かす遊びを含む）好き」の子供となるようにしていきます。

また、『未来を切り拓く3つの創る力』の育成を通して、児童生徒の体力の向上を図ることができるようにしていきます。